

日新地区と今庄宿の交流 ～昔の住まい方の良さを考える～

対 象 エ リ ア	福井市日新地区
日 時	平成24年8月9日（木） 12:20～15:00
開 催 場 所	南越前町今庄宿
対象者（人数）	日新地区の住民 参加者23名（小中学生、保護者、まちづくりメンバー）
主 催	福井県
共 催	青少年育成福井市民会議 日新支部
協 力	NPO法人今庄旅籠塾 南越前町今庄観光ボランティアガイド協会 福井大学教育地域科学部附属地域共生プロジェクトセンター
ね ら い	日新地区と今庄宿の交流を兼ねて（住教育のモデル地区の交流）、昔ながらのまち並みが残る南越前町今庄宿のまち並みや住まいを見て体験することで、昔の住まい方の良さを考える。
プ ロ グ ラ ム	<ol style="list-style-type: none"> 南越前町今庄宿の歴史や建物について ボランティアガイドによる今庄宿の歴史や、京藤甚五郎家、旧旅籠若狭屋などの建物の特徴を解説してもらう。 福井市日新地区と南越前町今庄宿との違いについて 今庄旅籠塾により、日新地区と今庄宿との違いを比較する。 今の暮らしと昔の暮らしの比較 見学した京藤甚五郎家や昔の暮らし方の資料をもとに、昔の住まい方の良いところや良くないところを書き出しまとめる。
準 備 物	<ul style="list-style-type: none"> 模造紙5枚 京藤甚五郎家の平面図とスナップ写真を貼り付けたもの 京藤甚五郎家の外観をスケッチしたもの 京藤甚五郎家の住まいの特徴を参加者が貼り付けるためのもの 昔の暮らし方で良いと思ったことを参加者が貼り付けるためのもの 昔の暮らし方で悪いと思ったことを参加者が貼り付けるためのもの (京藤甚五郎家の平面図、スナップ写真、外観スケッチは事前に準備) ポストイット 大人と子どもでポストイットの色を別にした マジック（ポストイット記入用） テキスト 京藤甚五郎家や昔の暮らしが分かるスナップ写真等を掲載 メモ用紙 筆記用具（参加者が持参） パソコン プロジェクター



ボランティアガイドに、今庄宿に残る江戸期～昭和初期頃に建てられた建物を案内してもらった。

参加者はそれぞれの建物の特徴などをメモに取った。



北国街道沿いに建つ京藤甚五郎家。両妻面の壁を屋根面よりも高く持ち上げた本格的な「ウダツ」を上げ、壁面を土壁で塗り籠め、屋根を瓦葺きとするなど、防火を意識した表構えが特徴である。

平成22年に県の有形文化財に指定された。



京藤甚五郎家の内部もボランティアガイドに案内してもらった。

ワークショップ当日は暑い日だったが、京藤甚五郎家の内部は涼しかった。



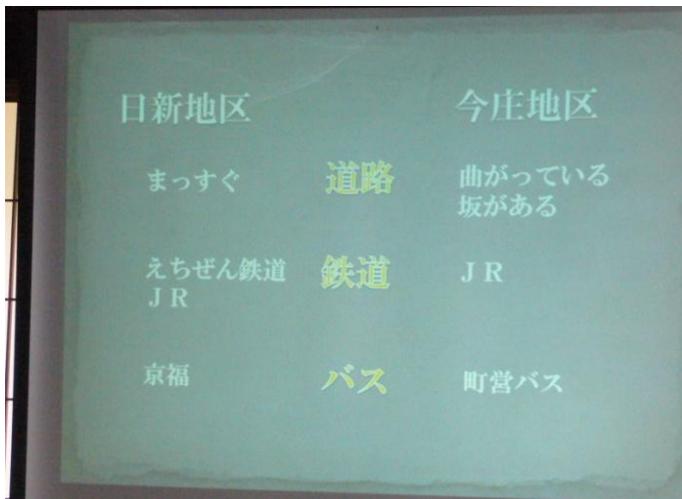
北国街道沿いに建つ旧旅籠若狭屋。旅籠とは一般の旅人の宿屋のこと。両脇に袖うだつが設けられている。江戸末期ごろの建築とみられる。

今庄の町並みや文化の保存継承を進めているNPO法人今庄旅籠塾の活動拠点となっている。

平成23年に国の有形文化財に登録された。



旧旅籠若狭屋内にてNPO法人今庄旅籠塾の事務局長から、同法人が取り組んでいる活動や今庄の現状などについて説明を受けた。



NPO法人今庄旅籠塾事務局長より、福井市日新地区と南越前町今庄宿の違いを比較してもらった。

その他、今庄宿のクイズを出題したりして、子どもでも今庄の歴史や自分たちの住むところとの違いを楽しく学ぶことができた。



実際に見学した建物やボランティアガイド・NPO法人今庄旅籠塾の方々の話をもとに、「京藤甚五郎家の住まいの特徴」「昔の暮らし方で良かったこと」「昔の暮らし方で悪かったこと」をポストイットに記入し、模造紙に貼りつけた。



今回のワークショップでは大人はピンク、子どもは黄色のポストイットを使用した。完成品は、今庄のイベント「街道浪漫今庄宿」にて掲示し来場者に発信したり、日新地区の公民館等に掲示し日新地区の住民に昔と今の暮らし方の違いについて考えるきっかけをつくった。

ワークショップ参加者の意見・感想など

- ・ 昔の家は土壁で暗いが涼しい
- ・ 土壁・瓦・うだつなど、防火に対する意識が高い
- ・ 昔の暮らしは不便だが、家族や地域のつながりが強い
- ・ 自然がいっぱいで癒される
- ・ 昔の生活は体力が必要だと感じた
- ・ 昔は電気がなくても生活していてエコである